

2022年度 外国語学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実施しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
<p>1. 教員組織の編成と運営</p> <p>(1)適切な組織編制</p> <p>①教授・准教授・助教のバランス</p> <p>②専攻別のバランス</p> <p>③男女のバランス</p> <p>④年齢別の割合</p> <p>⑤学術型教員、実務型教員の割合</p> <p>(2)FDの状況</p> <p>①科研費の採択</p> <p>②FD研修会の実施</p> <p>③教員自己評価にポートフォリオ形式を導入</p>	<p>1. 全体として、ほぼ実施。</p> <p>(1)適切な組織編制(教員の比率)</p> <p>①教授:准教授:助教=14:13:1(人)</p> <p>②ビジネス専攻:教養専攻=8:12(人)</p> <p>③男:女=17:11(人)</p> <p>④60代:50代:40代:30代=11:9:7:1</p> <p>⑤学術型:実務型=23:5(人)</p> <p>(2)FDの状況</p> <p>①採択5(主任3、分担2)</p> <p>②必要に応じて実施。</p> <p>③予定通り実施。</p>	<p>1. 全体90%</p> <p>(1)組織編制</p> <p>①90%</p> <p>②90%</p> <p>③80%</p> <p>④90%</p> <p>⑤80%</p> <p>(2)FDの状況</p> <p>①90%</p> <p>②90%</p> <p>③100%</p>	<p>1. 全体として、</p> <p>(1)組織編制</p> <p>①A</p> <p>②B</p> <p>③B</p> <p>④A</p> <p>⑤B</p> <p>(2)A</p> <p>①B</p> <p>②A</p> <p>③A</p>	<p>1. 全体として、良好。</p> <p>(1)適切な組織編制</p> <p>①良好。</p> <p>②ほぼ同数が望ましい。</p> <p>③ほぼ同数が望ましい。</p> <p>④良好。</p> <p>⑤実務増員が望ましい。</p> <p>(2)FDの状況</p> <p>①新規増加が望ましい。</p> <p>②良好。</p> <p>③良好。</p>	<p>1. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。</p> <p>(1)適切な組織編制</p> <p>①現状の維持を目指す。</p> <p>②新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。</p> <p>③新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。</p> <p>④現状の維持を目指す。</p> <p>⑤新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。</p> <p>(2)FDの状況</p> <p>①新規採用の増加を目標とする。</p> <p>②現状の維持を目指す。</p> <p>③教員自己評価に基づいたFDの実施が必要。</p>
<p>2. 学生募集(とくに入学試験)の目標と達成</p> <p>(1)定員の安定的確保</p> <p>①学部の定員</p> <p>②専攻別入学者数のバランス</p> <p>(2)入試改革</p> <p>①入試制度の改善</p> <p>②広報の改善(オープンキャンパスなど)</p>	<p>2. 全体として、ほぼ実施。</p> <p>(1)定員の充足</p> <p>①充足率(全体): 77%(2023/4/1)</p> <p>②国際ビジネス:国際教養=53:47(%)</p> <p>(2)入試改革</p> <p>①ほぼ実施</p> <p>②OC、出張講義などを実施。</p>	<p>2. 全体80%</p> <p>(1)定員充足</p> <p>①77%</p> <p>②80%</p> <p>(2)入試改革</p> <p>①90%</p> <p>②80%</p>	<p>2. 全体として、B</p> <p>(1)定員の充足</p> <p>①B</p> <p>②A</p> <p>(2)学部改革</p> <p>①A</p> <p>②B</p>	<p>2. 全体として改善必要。</p> <p>(1)定員の充足</p> <p>①新入生の定員割れ</p> <p>②良好。</p> <p>(2)学部改革</p> <p>①改善継続が望ましい。</p> <p>②SNS利用が望ましい。</p>	<p>2. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。</p> <p>(1)定員の充足</p> <p>①定員充足のためあらゆる対策を講じる。</p> <p>②専攻別入学者数のバランスを維持する。</p> <p>(2)学部改革</p> <p>①改善の継続が望ましい。</p> <p>②オープンキャンパスを含む広報の改善。</p>
<p>3. 教育目標の設定と達成</p> <p>(1)授業満足度の向上</p> <p>(2)少人数教育の実施(学生定員1040/専任教員数)</p> <p>(3)退学率の低減(目標3.6%)</p> <p>(4)留年率(現役4年生、成績不振による)の低減</p> <p>(5)学修成果の評価と可視化</p> <p>①DP到達度チェックの実施</p> <p>②外部試験の導入(フィードバック強化)</p> <p>(6)DP, CP, APの再検討</p> <p>(7)学部カリキュラム改革</p> <p>①四大改革の立案</p> <p>(i)英会話少人数クラスの設置</p> <p>(ii)レイクランド大学日本校との交流(短期国内留学など)</p> <p>(iii)2年生基礎ゼミ(PBL型授業導入)</p> <p>(iv)長期海外インターンシップの導入</p> <p>②その他の改革の立案</p> <p>(i)プログラム制の導入(コース終了証に代えて)</p> <p>(ii)外部試験の種類を検討</p> <p>(iii)その他(GPAの活用、履修規定の改善など)</p>	<p>3. 全体として、ほぼ実施。</p> <p>(1)「満足」率、各学年とも70%前後</p> <p>(2)学生数/専任教員数: 28/1</p> <p>(3)4.6%(昨年度6.3%)。</p> <p>(4)9.8%(昨年度12%前半)。</p> <p>(5)学修成果の評価と可視化</p> <p>①予定通り実施。</p> <p>②予定通り実施。</p> <p>③予定通り実施。</p> <p>(7)学部カリキュラム改革</p> <p>①四大改革の立案</p> <p>(i)予定通り立案。</p> <p>(ii)予定通り立案。</p> <p>(iii)予定通り立案。</p> <p>(iv)予定通り立案。</p> <p>②その他の改革の立案</p> <p>(i)予定通り立案。</p> <p>(ii)予定通り立案。</p> <p>(iii)予定通り立案。</p>	<p>3. 全体80%</p> <p>(1)80%</p> <p>(2)90%</p> <p>(3)80%</p> <p>(4)80%</p> <p>(5)学修成果</p> <p>①80%</p> <p>②80%</p> <p>(6)100%</p> <p>(7)改革</p> <p>①四大改革</p> <p>(i)100%</p> <p>(ii)100%</p> <p>(iii)100%</p> <p>(iv)100%</p> <p>②その他</p> <p>(i)100%</p> <p>(ii)100%</p> <p>(iii)100%</p>	<p>3. 全体として、B</p> <p>(1)B</p> <p>(2)A</p> <p>(3)B</p> <p>(4)B</p> <p>(5)学修成果の評価と可視化</p> <p>①A</p> <p>②A</p> <p>(6)A</p> <p>(7)学部カリキュラム改革</p> <p>①四大改革の立案</p> <p>(i)A</p> <p>(ii)A</p> <p>(iii)A</p> <p>(iv)A</p> <p>②その他の改革の立案</p> <p>(i)A</p> <p>(ii)A</p> <p>(iii)A</p>	<p>3. 全体として改善必要。</p> <p>(1)改善継続が望ましい。</p> <p>(2)改善継続が望ましい。</p> <p>(3)改善継続が望ましい。</p> <p>(4)改善継続が望ましい。</p> <p>(5)新たな改善が必要。</p> <p>(6)フィードバック弱い。</p> <p>(7)DP, CP, APを再検討。</p> <p>(8)学修成果改善が必要。</p> <p>(9)実務増員が必要。</p> <p>(10)DP, CP, APを再検討。</p> <p>(11)22年度一部実施。</p> <p>(12)23年度一部実施。</p> <p>(13)23年度一部実施。</p> <p>(14)23年度正式導入。</p> <p>(15)23年度正式導入。</p> <p>(16)23年度正式導入。</p>	<p>3. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。</p> <p>(1)FD研修など、満足度向上の対策を講じる。</p> <p>(2)全学年に少人数ゼミ形式科目の導入を検討する。</p> <p>(3)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。</p> <p>(4)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。</p> <p>(5)学修成果の評価と可視化</p> <p>①委員会、プロジェクトチームによる改善案の策定。</p> <p>②委員会による改善案の策定。</p> <p>(6)DP, CP, APを反映したカリキュラム、入試の改革</p> <p>(7)学部カリキュラム改革</p> <p>①四大改革の立案</p> <p>(i)23年度一部実施、24年度正式導入の立案。</p> <p>(ii)22年度一部実施、23年度正式導入。</p> <p>(iii)23年度一部実施、24年度正式導入の立案。</p> <p>(iv)23年度一部実施、23年度正式導入。</p> <p>②その他の改革の立案</p> <p>(i)23年度正式導入。</p> <p>(ii)23年度正式導入。</p> <p>(iii)23年度正式導入。</p>

2023年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>1. 定員の充足</p> <p>①定員確保のための募集戦略</p> <p>KPI:最低限230は確保(昨年度実績147)</p> <p>志願者数増加1000名以上(前年度実績629)</p> <p>-オープンキャンパスの来場者増加のため、OC内容改革、広報強化、SNSの利用</p> <p>-年内入試強化(9月総合追加)</p> <p>KPI:年内入試割合85%以上</p> <p>-入学前教育強化</p>
<p>2. 除籍・退学率改善</p> <p>KPI:3.7%(前年度4.6%)</p> <p>-1年次指導の強化(履修指導)</p> <p>-全学年面談</p> <p>-配慮学生指導強化</p> <p>-留年率削減</p>
<p>3. 教育カリキュラムの強化</p> <p>-2024年度新カリキュラムの運用の準備</p> <p>①新しいDPにあったCPの徹底</p> <p>②超少人数英語クラス(Speaking 8, Discussion 8など)</p> <p>-授業の質保証、教員確保(英語非常勤講師のコマ数再考、それに伴う英語スキル教員の確保検討)</p> <p>③基礎ゼミ(2年次):2024年運用に向けて準備(パイロットクラスからのフィードバックを受ける)</p> <p>④6つのプログラム制(2023年度開始)</p> <p>⑤ショーケース、eポートフォリオの準備 →FDを実施する</p> <p>⑥ティーチングポートフォリオの徹底</p>

2022年度 外国語学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実施しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
4. 学生支援目標の設定と達成 (1) 新入生特別研修 (2) 奨学金制度 ① 学生支援機構奨学金 ② 学生支援機構奨学金延滞率 (3) 本学のコロナ禍の特別支援 (3) 文化教養講座の実施 (4) 英語スピーチ大会などへの参加 ① 学外の各種プレゼン大会 ② 学部主催英語スピーチ大会(他大との共同開催)	4. 全体として、ほぼ実施 (1) オンライン実施 (2) 奨学金制度 ① 利用者425人。 ② 5.8%。在学中の学生指導を実施。 ③ 予定通り実施 (3) オンライン実施1回 (4) 大会などへの参加 ① 入賞(プレゼン大会) ② LUJとの共同開催	4. 全体95% (1)100% (2)奨学金 ①100% ②80% ③100% (3)90% (4)大会など ①90% ②100%	4. 全体として、A (1)A (2)奨学金 ①A ②B ③A (3)A (4)大会などへの参加 ①A ②A	4. 全体として、良好。 (1)参加率改善が必要。 (2)良好。 ①活用率が高い。 ②延滞率改善が必要。 ③活用率が高い。 (3)プログラムの継続。 (4)良好。 ①プレゼン1、英2、種2。 ②参加者10名。	4. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)参加率を上げる。 (2)現状維持を目指す。 ①活用率の維持 ②奨学生の就職率を高める対策を講じる。 ③来年度については実施の可否を検討。 (3)プログラムを継続する。 (4)現状維持を目指す。 ①支援制度を検討する。 ②改善案(他大との共同開催)を検討する。
5. 国際交流(とくに留学)目標の設定と達成 (1) 学生の派遣・受け入れの促進 ① 派遣 (i) 留学特待生、姉妹校交換留学、LUJ国内留学 (ii) 語学研修(短期と長期) ② 受け入れ (i) 連携教育プログラム (ii) 姉妹校からの受け入れ (2) 教員レベルの国際交流の強化 ① 派遣(教員の在外研修を目指す。) ② 受け入れ(教員の在外研修を目指す。) (3) チャットラウンジ利用(姉妹校からの訪問研究を目指す。) ① 対面 ② オンライン	5. 全体として、プログラムの復活が多い。 (1) 学生の派遣・受け入れ ① 派遣 (i) 交換留学10人 (ii) 54人 ② 受け入れ (i) 17人 (ii) なし (2) 教員レベルの国際交流の強化 ① 1人 ② なし (3) チャットラウンジ利用 ① 対面: 延べ2380人 ② 調査中	5. 全体90% (1) 学生 ① 派遣 (i) 100% (ii) 100% ② 受け入れ (i) 100% (ii) 100% (3) チャット... ① 100% ②	5. 全体として、A。 (1) 学生 ① 派遣 (i) A (ii) A ② 受け入れ (i) A (ii) 100% (2) 教員 (i) A (ii) 100% (3) A ① A ②	5. 全体として、良好。 (1) 学生 ① 派遣 (i) 派遣の再開。 (ii) 派遣の再開。 ② 受け入れ (i) プログラム再開。 (ii) コロナ禍のため。 (2) 教員 (i) 米国在外研修のため。 (ii) コロナ禍のため。 (3) 良好。 ① 良好。 ②	5. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1) 学生の派遣・受け入れの促進(国内留学を含む) ① 派遣(オンライン実施を含めて検討) (i) 留学特待生、交換留学の完全実施を目指す。 (ii) 語学研修の完全実施を目指す。 ② 受け入れ(オンライン実施を含めて検討) (i) 連携教育プログラム。 (ii) 姉妹校からの受け入れを促進。 (2) 教員レベルの国際交流の強化 (i) 教員の在外研修の実施を目指す。 (ii) 姉妹校からの訪問研究を目指す。 (3) 現状維持を目指す。使用言語の多様化を目指す。 ① 現状維持を目指す。 ②
6. 進路(とくに就職)目標の設定と目標 (1) 就職率の向上 (2) インターンシップの強化(とくに海外) (3) 英語教員の養成	6. 全体として、ほぼ実施。 (1) 就職率89.7%(2023.3.31) (2) 国内参加24、海外(オンライン含)14 (3) 採用13名	6. 全体90% (1)90% (2)90% (3)90%	6. 全体として、良好。 (1)A (2)A (3)A	6. 全体として、良好。 (1)前年度より若干低い。 (2)短期海外型を実施。 (3)志望者が少ない。	6. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)就職率を100%に近づける。 (2)国内参加率を維持し、海外参加率をあげる。 (3)志望者を増やす。
7. 地域貢献・社会貢献 (1) 他教育機関との連携 ① 併設校 ② 文京区の中高 ③ 協定高校 (2) 文京区町会活動への貢献 (3) その他の自治体との連携	7. 全体として、ほぼ実施。 (1) 他教育機関との連携 ① 予定通り実施(単位科目の提供) ② 予定通り実施(区立六中など) ③ 予定通り実施(神田女学院) (2) 例祭への参加(おみこし)中止 (3) 長岡市の国際交流活動に参加	7. 全体 (1) 連携 ① 100% ② 100% ③ 100% (2) (3) 100%	7. 全体として、 (1) 他教育機関との連携 ① A ② A ③ A (2) 評価できない。 (3) A	7. 全体として、良好。 (1) 他教育機関との連携 ① 高校生が来校。 ② 学生を派遣。 ③ 教育イベントに貢献。 (2) コロナ禍のため (3) 学生が現地を訪問。	7. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1) 他教育機関との連携 ① 教員交流が望ましい。 ② 区内の他の公立校との連携を目指す。 ③ 教育貢献を継続することが望ましい。 (2) 感染状況によるが、例祭への参加を目指す。 (3) 長岡市以外にも連携を拡大することが望ましい。

2023年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
4. 国際交流・グローバル教育の強化 ① 留学派遣・受け入れの強化 海外留学、LUJ国内留学、国内フィールドワーク、海外フィールドワーク、国際連携教育プログラムへの参加者を増やす。 ② LUJとの協力体制の強化 イベント(プレゼン大会、OC、文京際)での協力、LU本校との交流、交換留学など打診 ③ キャンパス内での国際交流 校内での留学生交流会、チャットラウンジ
5. キャリア教育 -内定率、実就職率の向上 KPI:内定率100% (前年度98.4%) 実就職率90%以上(前年度80%) -キャリアデザインの運用などキャリア教育の再考 -キャリアイベントの学生への周知方法を再考
6. 組織・教員間の連携・コミュニケーション強化 ① 各委員会の連携強化: -OC運用、入試、新カリ運用において連携を図る。 ② 教職センターと学部との連携強化 -教職指導の連携 -情報共有の強化